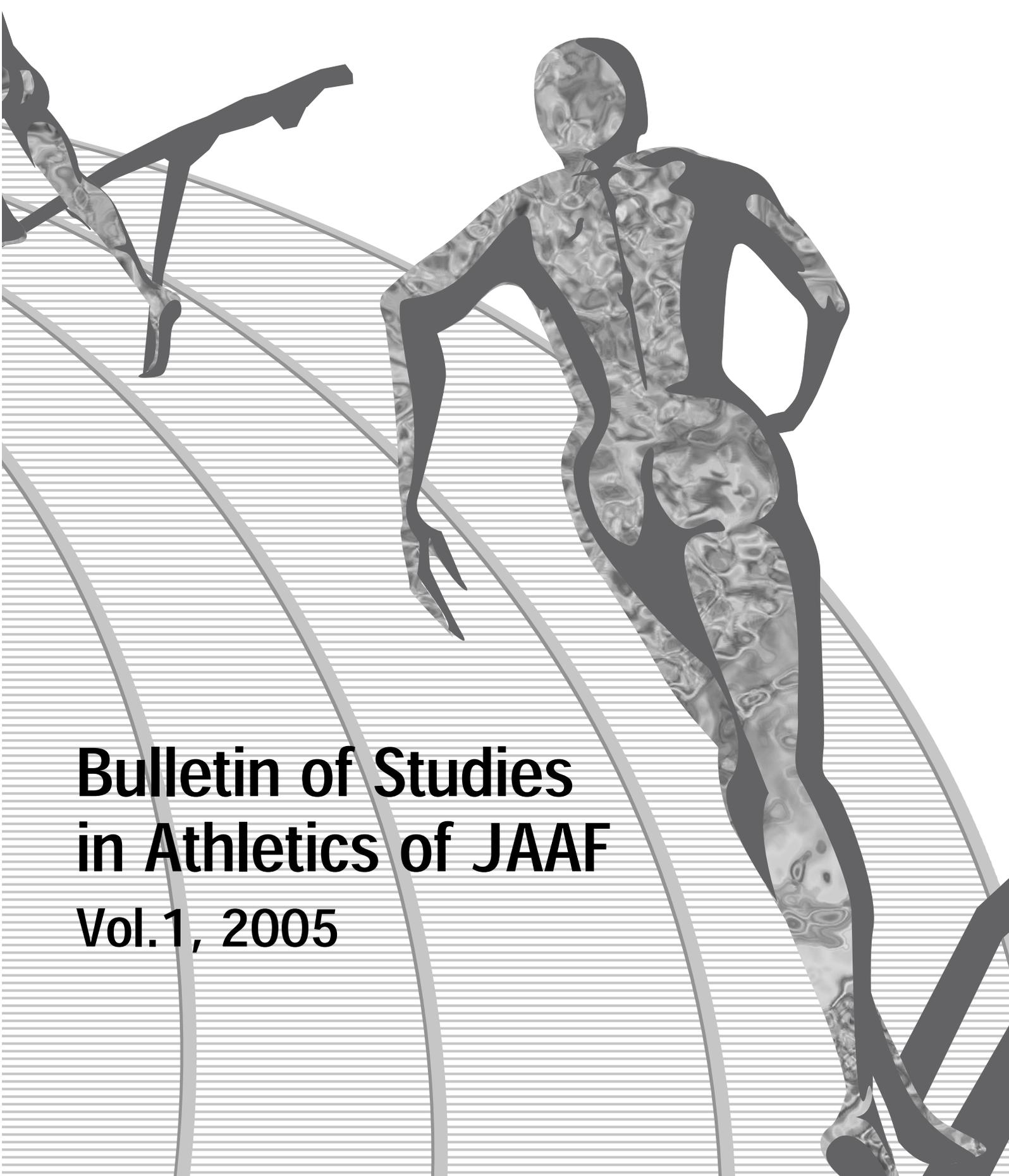


**JAAF**

財団法人日本陸上競技連盟  
ISSN1349-7596

# 陸上競技研究紀要



**Bulletin of Studies  
in Athletics of JAAF**  
Vol.1, 2005

# 「陸上競技研究紀要」

(Bulletin of Studies in Athletics of JAAF)

## 投稿規定

陸上競技研究紀要編集委員会

### 1. 投稿資格について

本紀要に投稿できるのは、原則として(財)日本陸上競技連盟登記登録者(例:公認コーチなど)とするが、それ以外でも編集委員会が認めた場合には投稿することができる。

### 2. 投稿内容および種類について

投稿内容は陸上競技についての理論と実践に関するもので、内容に応じて、総説、原著、購読紹介(外国文献の紹介など)、資料、指導法および指導記録の紹介などに分類される。スタイルは和文、英文のどちらでもよい。

総説および原著には英文のタイトル、著者、所属、要約(150語以内)をつける。

(注:何らかの理由で英文要約等の作成が困難な場合は、編集委員会にその旨をご相談ください。)

### 3. 採否等について

原稿は査読を行い、査読結果をもとに採否および掲載順序の決定、校正などは編集委員会が行う。

### 4. 原稿の書き方について

原稿は原則として、ワードプロセッサで作成する。本文は、横42文字×縦38字で1頁とする。(1頁は約1600字、刷り上がり10頁以内、図表もその頁数に含む、すべて白黒にて作成)

英文は、A4サイズタイプ用紙を使用し、15枚以内を原則とする。

計量単位は、原則として国際単位系(m、kg、secなど)とする。

### 5. 文献の書き方について

本文中の文献は、著者(発行年)という形式で表記する。

例) 田中(1996)は—————

文献は、原則として、本文最後に著者名のABC順で記載する。書誌データの記載方法は、著者名(発行年) 論文名、誌名、巻(号)、ページの順とする。

例) 田中競子(1996) 幼少年の疾走能力の発達、体育学研究 55(2)、155-162。

同一著者、同発行年の文献を複数引用した場合は発行年の後にa、b、cをつける。

例) 田中ら(1996 b)は、—————

### 6. 原稿の提出先

投稿原稿(本文、図表など)は、下記へE-mailの添付資料として送付するとともに、プリントしたもの1部を郵送する。

〒150-8050

東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内

日本陸上競技連盟

「陸上競技研究紀要」編集委員会宛

(Tel 03-3481-2300 Fax 03-3481-2449)

E-mail: kiyou@rikuren.or.jp

### 7. 原稿の締め切り

原稿の締め切りは、1月15日とし、発刊はその年度の3月末日とする。

### 8. その他

掲載者には、「陸上競技研究紀要」10部を寄贈する。

問い合わせ先:

〒244-8529 静岡市大谷836

静岡大学教育学部 保健体育講座

伊藤 宏(普及委員会調査研究担当)

Tel 及び Fax 054-238-4668

E-mail: ehhitou@ipc.shizuoka.ac.jp

## あ い さ つ

(財) 日本陸上競技連盟  
副会長・専務理事 櫻井孝次

陸上競技に関するアカデミックな調査・研究に関することは(財)日本陸上競技連盟の中で、普及委員会が発行する「陸上競技紀要」と科学委員会が発行する「日本陸連科学委員会研究報告 陸上競技の医科学サポート研究 REPORT」のふたつが担いその役割を果たしてきた。この度、両者を統合する「陸上競技研究紀要」として更なる発展を期すことになった。

競技力の向上は、陸上競技の普及・発展に大きく影響を及ぼす大切な要素であり、日本記録の誕生や国際大会での活躍は陸上競技に対する関心を高めることにつながっていく。競技力向上の為には指導者の経験と熱意に加えて医科学のサポート、さらには医科学サポートをバックアップするアカデミックな調査・研究は欠かせない。2004年のアテネオリンピック大会で日本選手は予想を上回る活躍を示したが、国際的な競技力の向上を目指して選手・指導者・医科学研究者が一体になって取り組んだ「国立スポーツ科学センター」の果たした役割が評価されている。

今、日本の陸上界は2006年福岡市で行われる世界クロスカントリー大会と2007年大阪市で行われる世界陸上競技選手権大会の大きなビッグイベントを地元日本で開催する準備をして国際的な地位向上を目指している。リニューアルした「陸上競技研究紀要」発行を機会に、日本に於ける陸上競技の調査・研究が国際的な評価を高めるよう研鑽に励んでほしい。

# 陸上競技研究紀要

Bulletin of Studies in Athletics of JAAF

Vol.1 2005

## 目 次

### 【原著論文】

- 不正スタートに関わるルール改正が  
決勝進出者のスタート反応時間に及ぼす影響 . . . . . 梶原洋子ほか . . . 1
- 中高年齢女性の 100 m 走中間疾走局面における最高速度、  
歩数頻度および歩幅の加齢にともなう変化 . . . . . 田中秀一ほか . . . 8
- 世界と日本の一流男子 800m 選手のレースパターンの比較 . . . . . 榎本靖士ほか . . . 16
- 長野マラソンの支援システムに関する基礎研究  
—参加者のニーズに着目して— . . . . . 阿保雅行ほか . . . 23
- 身体重心速度およびポール湾曲度からみた  
男子棒高跳選手のバイオメカニクスの分析 . . . . . 武田 理ほか . . . 30
- 女子砲丸投げのグライド投法における  
世界レベル競技者と日本国内レベル競技者との相違 . . . . . 田内健二ほか . . . 36
- 中学四種競技者のトレーニングおよび意識についての調査研究  
—全国大会レベル競技者の場合— . . . . . 繁田 進ほか . . . 45
- アテネ・オリンピック大会における陸上競技日本代表選手・団  
の記録「達成率」ならびに実力発揮度について . . . . . 岡野 進ほか . . . 52
- 【資 料】**
- 日本と世界の 100m 走の記録の推移の分析  
日本選手はいつ頃世界レベルに達することができるのか . . . . . 伊藤 宏ほか . . . 61
- 傾斜スタート台を利用した 20m Dash の疾走速度に関する研究  
— 単一傾斜台と複合傾斜台の比較 — . . . . . 内山了治ほか . . . 67
- 第 20 回全国小学生陸上競技交流大会参加選手の実態報告 . . . . . 小野伸一郎ほか . . . 72
- 小学生対象陸上競技クラブの種類別活動の実態  
第 20 回全国小学生陸上競技交流大会 (2004 年)  
指導者への調査分析 . . . . . 木村一彦ほか . . . 79
- 2004 年度全国高等学校総合体育大会  
入賞陸上競技選手におけるサプリメント摂取状況 . . . . . 石井好二郎ほか . . . 95
- 【科学委員会研究報告 陸上競技の医科学サポート研究】** . . . . . 103